

# 憲法25条生かされた社会に



「憲法25条を守れ」とアピールする人々  
たち=18日、東京・日比谷野外音楽堂

## 社会保障解体ストップ

東京・日比谷 3500人集いアピール

安倍晋公政権が社会保障の解体をねらう中、憲法25条（生存権）を守ろうと18日、東京・日比谷野外音楽堂で集会が開かれ、3500人超の人たちが参加しました。土砂降りの中、参加者は「人間の生命と尊厳が大切にされる、憲法が生かされた社会を私たちの力で実現」させようと呼びかけるアピールを探査しました。主催は、憲法25条を守れ！・18共同集会実行委員会。

呼びかけ人の一人、生活保護問題対策全国會議代表幹事の尾藤廣喜弁護士が主催者あいさつしました。格差と貧困の深刻化にふれ、「今こそ市民の生存権保障を実質化するためには、国の責任で社会保障制度の充実を行なうこと」が強く求められている」と指摘。憲法9条を守り、25条を実質化するために、幅広い人たちとつながろうと呼びかけました。

保育士や母親、医療・介護従事者、生活保護利用者、障害者、高齢者らが、人間らしく生きる権利の保障を求めて訴えました。

社法人「鴻沼福祉会」からは障害者や家族、職員など約120人が参加。職員の田熊和夫さん（46）は「生存権は大事。これがないと田露戦争の時のように真っ先に障害者が犠牲になる。25条を守るためにいろいろな人と手を取り合って、協力していけたらいい」と力を込めました。

福祉職場で30年働く若林美喜子さん（64）は「現場は大変な人手不足。障害者のニーズに即した手立てが取れない。利用者にとって、必要な支援に手足だとと思う。軍事費増額などは表裏一体。平和国家で社会保障を充実してほしい」といいます。

福島県生活と健康を守る会連合会の弦弓高明（つるゆみ・たかはる）さんは「貧困の子ども、生活保護を受けている人も人間らしい暮らしができるように

したい。25条と13条の基金」共同代表の菅原一カ一の鮎澤（あいざわ）ゆかりさんは、安倍政権が社会保障をじらしていることはない」と憤ります。「国

の負担が薄いから、病気でも病院に来られないと、病院に来ても（医療費が高く）お金が払えない。（国は）自己責任を言つけど、国としての責任は全然果たさない」と批判しました。

野党4党の国会議員が参加。日本共産党的田村智子参院議員は「安倍内閣を倒すことなく、憲法25条を守る道です。市民と野党の共闘でがんばろう」と連帯のあいさつをしました。

呼びかけ人21人から、作家の雨宮処凜、金沢大学名誉教授の井上英夫、日本赤十字看護大学名誉教授の川嶋みどり、米軍新基地建設に反対する「辺野古

雨宮、本田直氏は司会を務め、菅原氏は閉会あいさつをしました。会代表の藤井克徳、医療制度研究会副理事長の本田宏名氏が参加。